



みんなで歌おう ステージに勢ぞろいした先生たち



開会の挨拶をする小川委員

## 第48回ドクタース・ファミリーコンサート

# 新会場で高らかな響き

## 親密感増す「音楽の友ホール」

台風18号が駆け抜け秋晴れに恵まれた10月11日(日)、新宿区神楽坂の「音楽の友ホール」で第39回ドクタース・ファミリーコンサートが開かれました。ことし初参加は大坪八子先生と越島康太郎氏。また高野征夫先生が2年ぶり2度目、鈴木美根子さんが昨年に続いて2回目とフレッシュな感じ。一方、岩崎哲先生をはじめベテラン陣も元気な姿。コンパクトな会場は演じる諸先生と聴衆との間に、きわめて親しい雰囲気醸し出していました。

(写真説明・敬称略)

今年度から洋楽部委員を務められる小川昭子先生が開会のご挨拶。恒例となった「みんなで歌おう」から始まり

ました。

ステージには元・コロアキのメンバーと松木耀子、大坪八子先生も加わって、「里の秋」を、聴衆の方々と一緒に歌いました。この企画は秋野昭三先生がお元氣なときに始まり、病気で引退された後は、小川先生ら女声コーラスを指導されている刑部美也子さんにバトンをお願いして続いています。ことしも会場いっぱい響き渡りました。以下、当日の様様を写真を添えて、ご紹介します。

プログラム1番 昭和16年に「星月夜」という名前で発表されたのですが、戦争が終わって、外地からの引き揚げ者のためのラジオ番組「引き揚げ同胞の午後」のテーマ曲として流され今の「里の秋」という題名になりました。3番の歌詞「さよなら さよなら 椰子の島 お舟にゆられて 帰られる ああ父さん御無事でと 今夜も かあさんと 祈ります」を歌うとき、当時のことを思い出しました。ピアノ伴奏は砂井薫さん

プログラム2番 テノール独唱 浅野尚、ピアノ伴奏 西島麻子。毎年、外国の曲に挟んで日本の曲を歌う浅野先生。昨年、武満徹の「小さな空」を歌いましたが、それを聞かれた友人の奥様から、今年はずいぶん「翼」をとリクエストされました。この歌の前後に「帰れソレント」や「忘れな草」で有名なイタリアのデ・クルティス作曲「夜の声」と、パバロッチイが得意としていた「夢みるフィ



ソプラノ独唱 浅野 尚

レンツェ」を高らかに歌い上げました。

プログラム3番 フルート独奏 高野征夫、ピアノ伴奏 竹内綾 最初に演奏されたのはフルートのソロで名曲中の名曲といわれるノブロ作曲の「メロデー」で大変、甘美な曲。次の「マドリガル」もフランスの作曲家で指揮者、そして自らもフルートの名手であったあったゴッベールの作品。高度なテクニクが必要とされ、素敵な演奏をたっぷり披露されました。



フルート独奏 高野 征夫

プログラム4番 ギター独奏 岩崎哲。岩崎先生はご自身でアンブをセツト。すでに年寿を超えていますが、前橋から駆けつけてくれました。ギターは小さなオーケストラ」とい言葉に相応しく

クラシック・ギターの曲で5本の指に入ると言われるワルカー作曲の「小さなロマンス」と次いでスプレアヒコ作曲の「無言歌」を丹念に演奏しました。



クラシック・ギター独奏 岩崎 哲

プログラム5番 ソプラノ独唱 大坪公子 ピアノ伴奏 要 浩子。松木耀子先生のご紹介で今年初めて参加。世田谷区内で病院長として活躍中で、50歳ごろから牧野庸子先生に声楽の指導をつけられ、週一回練習されてきました。「声楽は生きる力」といわれていて、本職の

医業にも励まれています。今回はオペラのアリアから2曲、ブッチーニのボエーム第3幕から「私が町を歩くとき」とヴェルディの運命の力より「神よ平和を与えたまえ」で高音部ものびのびと、実力のほどを披露されました。



ソプラノ独唱 大坪 公子

プログラム6番 ヴァイオリン独奏 中村雄彦 ピアノ伴奏 豊島玲子。昭和59年に入会、上野の東京文化会館でも



ヴァイオリン独奏 中村 雄彦

1ツァルトのソナタ、K301番の全曲を演奏してから、ほぼ毎回パツハ、モーツァルト、ベートーベン、ブラームスなどのソナタやコンチエルトを弾かれています。今回はモーツァルトの傑作の一つ。コンチエルト3番第2楽章。アイザック・スターンが「同じ繰り返しが無いの

がモーツアルトの天才たる所以と  
 いたそつで、演奏は一筋縄ではい  
 かないとか。伴奏の豊島玲子さん  
 (歯科医)は3歳からピアノを習  
 い、高校1年から現在まで  
 伴奏を務めています。小学  
 校の時、市主催のコンク  
 ールで優勝した経験があ  
 ります。東京、新潟県と離  
 れて暮らしており、合奏の  
 機会が少ないのですが、「長  
 年一緒にやっていますので、  
 これまで大きな破綻もなく  
 演奏してきました。今回も  
 楽しみいただける演奏がで  
 きれば幸いです」と、おっし  
 ゃっていました。

プログラム7番 ファゴット独奏  
 越島康太郎 ピアノ伴奏 刑部美也子  
 初登場です。小川昭子先生  
 の身内の方で、病院職員を  
 なされているかたわら、長  
 年ファゴットを演奏し、活  
 動をされています。今回は  
 三浦真理編曲の「日本の歌  
 メドレー」から「浜辺の歌」  
 「かあさんの歌」 「赤トンボ」  
 。落ちついた演奏で音も  
 よく響いていました。



ファゴット独奏 越島康太郎

ここで休憩、進行がスムーズ  
 過ぎて、やや長めにお休み。そ  
 れでも10分早く再開しま  
 した。来年の課題です。

プログラム8番 ソプラノ二重唱  
 と独唱 松木耀子 人見 共  
 ピアノ伴奏 白石 海 モーツ  
 アルトの楽しいオペラ、フ  
 ィガロの結婚第三幕から  
 ……浮気な伯爵を懲らしめ  
 るようと、スザンナと伯爵  
 夫人が共謀して、呼び出し  
 の手紙を記します。人見先  
 生がスザンナ、松木先生が  
 伯爵夫人をユートモラスに  
 歌いました。松木先生の独  
 唱は、カルメンのもとへ走  
 った婚約者のホセを探しに  
 密輸業者の巢窟にやってきた  
 ミカエラが「あの人、きつ  
 とここにいます。死ぬほど  
 かわいけど、怖がってはな  
 らない」とい



ソプラノ二重唱 松木 耀子(左) 人見 共(右)

アリア。毎年、オペラのアリアで楽しませてくれました。

プログラム9番 菊地録二先生の二重唱でしたが、ご都合でお休みでした。

プログラム10番 元コーロアキの皆さんによる女声コーラス。メンバーを紹介しますと、ソプラノ 広瀬珠恵 宮崎洋子、恩田弘子、田代久子 アルト 砂井 馨 矢部泰子、小川昭子 ピアノ 伴奏 刑部美也子。

初めにドイツ民謡の「眠りの精」、プログラムがシューベルトの子供たちのために編曲したといわれ、思わずいっしょに口ずさみたくなりました。次にスメタナの交響詩「わが祖国」から「モルダウの流れ」、最後にヒンメルの曲に服部公二氏が自ら訳詞・編曲した『小雨降る道』。30年余りにわたって、好きなコーラスを楽しんでいるグループ。素敵なハーモニを聞かせてもらいました。



女声コーラス(元コーロアキの皆さん)

プログラム11番 マンドリンアンサンブル まずパートを紹介します。

第1マンドリン 亀岡智子 第2マンドリン 木内徹子 マンドラ 笹美智子 ギター 高橋妙子 キーボード 中山真理

1950年代に初演された懐かしいミュージカルから4曲。まず「サウンドミュージック」。オーストリアのトラップ海軍大佐宅に、子どもたちの家庭教師として務めることになった修道女マリアが、雷を怖がる子どもたちを「楽しいことを考えて」と励まし、打ち解けていく場面です。2番目は有名な「エーデルワイス」。ナチスドイツに併合される故国を想い、オーストリアの象徴として歌った曲(ちなみに事務局のある小平市が夕刻に流すチャイム也)。

次の2曲はオードリー・ヘップバーンが主役の映画でおなじみの「マイフェアレディー」から。ロンドンの下町の花売り娘イライザをレディーにしよつと奮闘するヒギンズ教授。このイライザのことを想う青年が歌う「君住む街」、最後の曲は、



マンドリンアンサンブルの皆さん

綺麗な言葉遣いをついにマスターしたイライザが嬉しくて嬉しくて眠れない。「一晩中踊っていたいわ」と歌う「踊り明かそう」。中山さんの指揮で楽しいアンサンブルでした。



ソプラノ独唱 鈴木美根子

プログラム12番 ソプラノ独唱  
鈴木美根子 ピアノ伴奏 鈴木育子。  
今治市で開業しているご主人の心援で  
伴奏されるピアノ専攻のお嬢さんとも  
に「念願の音楽大学で音楽を学ぶ機会を  
得られたことは、大変幸せなこと」とお  
っしゃっており、来春卒業です。今回は  
フィガロの結婚より第二幕 伯爵夫人の  
アリア「あの楽しい思い出はごへ」。  
浮気者である夫の心変わりを嘆きなが

らも伯爵との幸せな日々を回想。希望を失わない夫人を毅然とした態度で歌います。次はランメルモールのルチアより第一幕第2場、「あたりは沈黙に閉ざされ」です。ルチアは庭内の泉で、「昔ひとりの女が殺され、清らかな泉が真っ赤な血に染まって以来、幽霊が出る」という不吉な言い伝えを聞かされ、自分の将来（狂気のうちに自刃する）の悲劇的な運命を予感しながらも、一方では恋人ともにもある喜びを表情豊かに歌い切りました。

閉会のご挨拶は松本委員。「来年も…」と再会を願いました。

